

はじめに

埼玉大学教育学部附属特別支援学校 校長 石川 泰成

「新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議報告（令和3年1月）」及び中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（令和3年1月）」が取りまとめられました。これらを受け、文部科学省では、障害のある子供一人一人の教育的ニーズを踏まえた適切な教育の提供や、就学後を含む一貫した教育支援の充実が図られるよう、関係者の指針として「障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～」を名称の変更、内容の改訂とともに公表しています。

特に、「新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議（報告）」では、特別支援教育全体を俯瞰し、「基本的な考え方と場の整備」「教師の専門性の向上」「ICTの利活用と関係機関の連携」の柱で提言され、中でも「教師の専門性」をどのように向上させるかについて、特別に会議を設けて議論が進められています。

このように、特別支援教育にかかわる全ての教員の専門性の向上は喫緊の課題の一つと言えます。特段、センター的機能を発揮し、小・中学校への支援が求められている特別支援学校の担う役割は、より重要になると考えます。障害のある子供の自立と社会参加を見据え、子供たち一人一人の教育的ニーズに最も確に答える指導を提供できるよう、学校、教員が研鑽を積むことが一層求められていると言えます。

さて、本校では「児童生徒の確かな学びを目指した授業づくり（2年次）―各教科等を合わせた指導」の学習評価の研究―」を主題に掲げ、3年次の研究に取り組んでおります。本校のこれまでの教育実践の成果を生かした「各教科を合わせた指導」において、各教科の目標・内容を明確化した上でその配置を確定し、知的障害教育における「確かな学び」の実現に向けて、評価に焦点を当てた研究に取り組むものです。今年度は、公開授業研を2回実施するとともに、令和6年2月10日（土）に研究協議会を実施し、その成果等を研究収録として発刊するものです。詳細は、本編に譲りますが、子供たちの各教科の特質に応じた見方・考え方が育まれることや評価情報を指導法やカリキュラム・マネジメント等にフィードバックできるようにすることに挑戦しております。研究は試行錯誤の連続でございます。ぜひ、皆様から忌憚のないご指摘、ご助言を賜ればと存じます。よろしくお願い申し上げます。

結びに、ご指導いただきました埼玉大学教育学部特別支援教育講座および教育実践総合センターの先生方、埼玉県教育委員会、埼玉県立総合教育センター、さいたま市教育委員会、埼玉県連合教育研究会、埼玉県特別支援教育研究会はじめ関係の皆様、衷心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

目次

○はじめに

○目次

第1章 研究概要

1 研究テーマ・研究目的	1
2 研究テーマ設定の理由	2
3 カリキュラム・マネジメントとの関連	4
4 研究方法	4
5 研究計画	5
6 昨年度の取組から	5
7 今年度の取組	5

第2章 小学部の研究

I 実践報告	14
II 研究のまとめ	26

第3章 中学部の研究

I 実践報告	32
II 研究のまとめ	44

第4章 高等部の研究

I 実践報告	50
II 研究のまとめ	66

第5章 研究のまとめ

I 研究の成果	71
II 今後の課題	72

第6章 保健教育の研究

I 研究概要	76
II 実践報告	76
III 研究のまとめ	78

○資料 「将来像」、「個別の年間指導目標」、「主体性を引き出す3つの観点」

○おわりに

○研究・実践者

第 1 章

研究概要

1 研究テーマ・研究目的

1-1 研究テーマ

児童生徒の確かな学びを目指した授業づくり(2年次) —「各教科等を合わせた指導」における学習評価の研究—

社会の変化に応じて、子供たちがたくましく生きていく力を身につけていくために、知的障害教育において「確かな学び」を育む「各教科等を合わせた指導」(以降、「合わせた指導」とする)の授業づくりについて、本研究がその一端を示すことによって、それぞれの学校の子供たち、ひいては全国の特別支援教育の向上に資する研究になることを願い、研究テーマを「児童生徒の確かな学びを目指した授業づくり」、2年次の副題を「『各教科等を合わせた指導』における学習評価の研究」とした。

1-2 研究目的

「各教科等を合わせた指導」において、学習内容の明確化、学習評価の改善・充実を図り児童生徒の確かな学びを育む授業づくりを行う。

本研究で目指すのは児童生徒の「確かな学び」を育むことのできる授業づくりである。教員が、結果や成果だけに着目するのではなく、「確かな学力」を身に付ける過程や学ぶ環境等も意識しながら授業を行えるように「確かな学び」という言葉を使っており、本研究では、「確かな学び」を「『確かな学力』及びそれを身に付ける過程で、自身の学び方、ともに学ぶ仲間や相手、環境を意識し、実際の生活の場面で活用できること」と定義した。また、本研究では授業における子どもの学びを意識するために、「指導内容」ではなく、「学習内容」という表現を用いた。

本研究では、「合わせた指導」の学習内容の明確化、学習評価の改善・充実に取り組み、それらを踏まえて授業づくりの考え方を整理し見直すことで、児童生徒の確かな学びを育むことのできる授業づくりを行うことを目的とした。なお、本研究における学習評価は、児童生徒の学習状況や成果を適切に捉え、授業の改善に活かすために、教員が主体となって行うものと捉えた。

1-3 2年次の研究目的

「各教科等を合わせた指導」の単元において、学習する各教科等の目標・内容を明確にし、それらに対する学習評価の在り方を探る。

本校で実施している日常生活の指導、生活単元学習、作業学習、遊びの指導といった「合わせた指導」では、児童生徒の発達段階や興味関心、生活上の課題等に応じて、単元ごとにさまざまな教科等の目標・内容を扱っていると考えられた。

今年度は単元に焦点を当て、単元で取り扱う各教科等の目標・内容の整理と、単元の指導計画の検討を行い、授業実践を交えながら、単元を通した各教科等の学習評価の方法や考え方を明らかにすることを目的とした。

2 研究テーマ設定の理由

2-1 特別支援教育の動向

平成 29 年・平成 31 年の学習指導要領の改訂では、学びの連続性の実現に向けて、特別支援学校においても、小・中学校、高等学校と同様に、育成を目指す資質・能力の要素が 3 つの柱から整理され、各教科等の観点別評価を取り入れることの重要性が指摘された（文部科学省,2017）。これらの背景には、インクルーシブ教育を念頭においた障害のある子供たちの学びの場の柔軟な選択、子供たちの学習保障がある。

また、中央教育審議会の「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」（2019）では、「子供たちの学習の成果を的確に捉え、教員が指導の改善を図るとともに、子供たち自身が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにするためには、学習評価の在り方が極めて重要」とされている。特に知的障害教育については「児童生徒の一人一人の学習状況を多角的に評価するため、各教科の目標に準拠した評価による学習評価を導入し、学習評価を基に授業評価や指導評価を行い、教育課程編成の改善・充実に活かすことのできる PDCA サイクルを確立することが必要であるとされている」とある。

知的障害教育においても、児童生徒が身に付けた力を各教科等の見方・考え方から説明することや、取り扱う各教科等の目標・内容の明確化とその学習状況の評価に基づき、授業・指導を評価してカリキュラム・マネジメントを行うこと、子供たちが各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせることを目指した授業改善が求められていると言える。

2-2 本校の課題

本校は、もてる力を最大限に発揮して自立と社会参加できる子供たちを育てていくことを目指している。そのために、知的障害のある子供たちの学習上の特性から、生活に即して体験的に学ぶことができる指導形態として「各教科等を合わせた指導」を教育課程の中心に据えてきた。

前研究では、全校共通のキャリア教育の視点となる「将来像」※を個々の児童生徒に作成し、主体性を引き出す授業づくりに取り組んできた。また、キャリア教育の取組を通して、個々の実態に応じた指導目標の設定、指導・支援の充実を図り、児童生徒が生き生きと学習活動に取り組む姿を実現してきた。

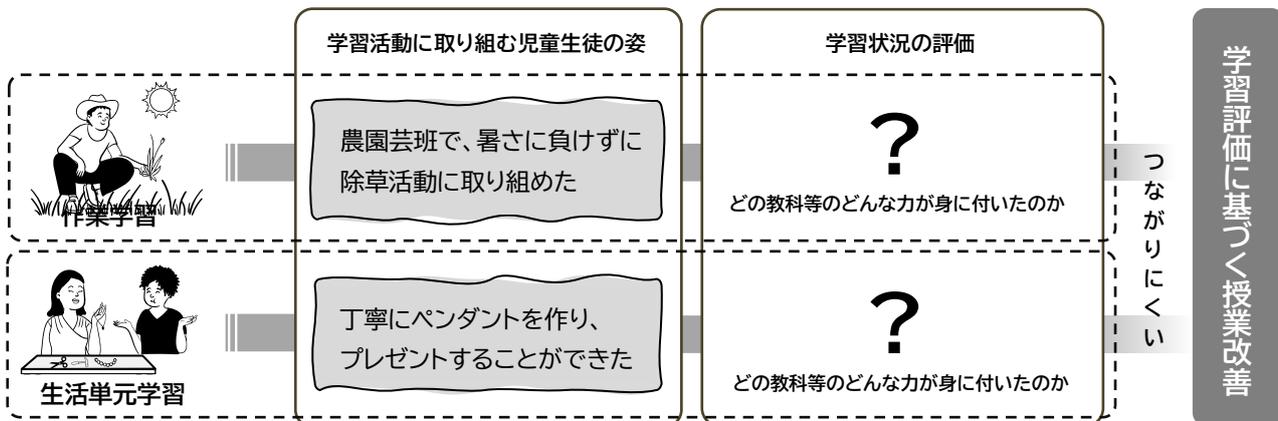
しかし、これまでの本校の授業づくりでは、学習活動が各教科等の目標・内容とどのように関連しているか、学習活動の中で児童生徒がどのような各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせることを目指しているのかを明確にしてこなかった。特に「合わせた指導」においては、「生活に即した」「体験的な」といった活動内容や指導方法（学習方法）についての工夫に重点を置き、どのような教科等の目標・内容を扱っているのか、どのように評価するのかという部分に意識が向けられることは少なかった。

また、学習評価について、これまでは指導形態ごとに独自の観点を設けたり、キャリア教育の観点から個々の成長を評価したりすることを重視してきた。そのため、児童生徒が習得した力を各教科等の特質に応じた見方・考え方との関連から整理することや、各教科等の目標・内容との関連から児童生徒の学習状況を把握することはできていなかった。

※将来像…本校のキャリア教育の視点 資料 P83

これまでの学習評価のイメージ

どの教科等のどんな力が身に付いたのか、各教科等の目標・内容との関連が不明確だったため、適切な学習状況の評価、授業改善が行えていたのかわからない…。



本研究で目指す学習評価のイメージ

学習活動を通してどのような教科等を扱い、どのような力を身につけることを目指すのかを明確にし、3観点の評価規準にそって学習評価を行うことで、「確かな学び」を育む授業づくりへとつなげる。



図1 これまでの本校の学習評価と本研究で目指す学習評価のイメージ

これらの特別支援教育の動向と本校の課題を踏まえ、学校研究として「合わせた指導」の授業づくりの改善に取り組むこととした。

本校の「合わせた指導」においては、各学習活動で取り扱う各教科等の目標・内容の明確化すること、また児童生徒の学習状況を適切に捉えて授業づくりにつなげることができるよう学習評価を改善することが必要であると考えられた。学習活動で取り扱う各教科等の目標・内容を明確にすることは、その授業で目指す児童生徒の姿を明らかにし、どのようにその姿に導くかという指導・支援の目的の明確化にもつながる。また、各教科等の特質に応じた見方・考え方、資質・能力の3つの柱を意識して単元計画を作成し、観点別学習状況の評価の3観点に基づいて学習評価を行うことにより、児童生徒の学習状況を多角的に、適切に把握することができるだろう。さらに、その学習評価に基づいて指導の評価を行うことで、学習活動の設定、指導・支援等の充実が期待できると考えられた。

そこで、本研究を通して、「合わせた指導」における学習内容の明確化及び学習評価の改善を図り、それらを踏まえて授業づくりを見直すこと、さらに学習評価に基づく授業改善のサイクルを確立することで、児童生徒の「確かな学び」を育む授業づくりを行うことを目的に、研究テーマを「児童生徒の確かな学びを目指した授業づくりー『各教科等を合わせた指導』における学習評価の研究ー」とした。

3 カリキュラム・マネジメントとの関連

本研究では「合わせた指導」の学習評価に焦点化するために、研究目的に「カリキュラム・マネジメント」という言葉を含めていない。しかし、学習評価、指導の評価に基づく授業改善は、カリキュラムの見直し・改善というカリキュラム・マネジメントの側面をもつ。本研究における成果は、結果的に本校のカリキュラム・マネジメントにもつながるものである。

また、授業における学習内容、学習評価についての研究は、教育課程の編成・実施と密接にかかわるものである。本研究の研究過程においては、現在の教育課程上の課題の発見や、課題に対する解決策の提案なども行われた。

学校研究では、現在行っている授業実践を起点として、1単位時間の学習評価の改善、さらには単元の指導計画・評価計画へと発展させ、授業づくりの考え方を整理・見直していく。一方で、教育課程については、教育課程検討委員会がその見直しと改善に取り組み、学校教育目標と目指す子ども像、授業計画、各書式等の整備といった教育の全体計画にかかわる教育課程の編成・実施という観点から、授業改善へとつなげていく。本研究と教育課程の見直し・改善は、同時にそれぞれ逆の方向からカリキュラム・マネジメントにアプローチしているといえる（図2）。

本研究で得られた成果を教育課程に反映し、見直し・改善が図られた教育課程に基づき、さらに研究を進める、このような学校研究と教育課程の見直し・改善を両輪として、本校のカリキュラム・マネジメントを推進していくことができると考える。

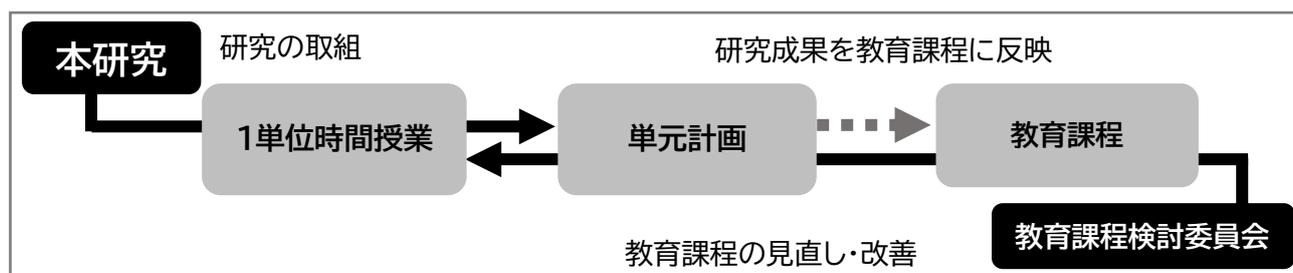


図2 本研究と教育課程改善のアプローチ

4 研究方法

2年次となる今年度は「合わせた指導」の1単元を取り上げ、「単元の評価シート」（P9・10資料1）を活用して単元計画の作成及び単元を通じた学習評価の実践を行った。「単元の評価シート」は、単元で扱う教科等の目標・内容の明確化、単元計画・評価規準の設定、児童生徒の学習評価、指導の評価の記録をすることで、児童生徒一人一人の単元における各教科等の学習評価を行うことを目的とした。そして、「単元の評価シート」を用いた実践結果をもとに、単元計画の作成及び単元における学習評価の考え方や方法について考察した。

5 研究計画

本研究は3年研究とし、表1に示した3つの段階にそって学習内容の明確化、目標・評価規準の設定、授業づくりの考え方を整理・見直すことで、児童生徒の確かな学びを育む授業づくりを目指すこととした。

表1 本研究の取組内容と今後の予定

1年次	<ul style="list-style-type: none"> ① 「合わせた指導」の1単位時間の授業の学習内容の整理、目標・評価規準の設定の仕方の検討と実践。学習内容の整理、評価規準等の考え方の枠組みとなる「授業づくりのフレームワーク」の作成。 ② 授業・学習評価の実践を踏まえ、1単位時間の学習内容の整理の仕方、評価規準の設定の仕方、フレームワーク自体の見直し・改善。 ③ フレームワークの改善及び学習評価の方法の見直しをもとに、個々の学習活動や学びの姿に応じた一人一人の「評価の判断の基準」を設定。
2年次 (今年度)	<ul style="list-style-type: none"> ① 単元における学習評価のための「単元の評価シート」を作成。 ② 「単元の評価シート」を活用した取り扱う教科等の明確化、指導計画の作成、評価規準の設定。 ③ 「単元の評価シート」を用いた授業実践。 ④ 実践結果を踏まえ、単元計画や評価規準の設定の仕方、「単元の評価シート」自体の見直し・改善。 ⑤ 単元における各教科等の学習評価の方法や考え方の整理、まとめ。
3年次	<ul style="list-style-type: none"> ① 1・2年次の成果を踏まえた授業実践。 ② 「合わせた指導」の授業づくりの方法や考え方の整理、まとめ。

6 昨年度の取組から

昨年度は「合わせた指導」の1単位時間の授業について、「授業づくりのフレームワーク」(資料1)を作成し、学習内容の整理、目標・評価規準を設定する過程を整理した。また実践結果をもとに、1単位時間時間の学習評価の方法・考え方を検討し、「共通目標をもとに個々の児童生徒の実態に合わせた段階や内容を選択すること」や、「評価規準に達したかどうかを見とるために、個々の学習活動や学びの姿に応じて評価を行うための『評価の判断の基準』」を設定するが有効であると考えられた。「授業づくりのフレームワーク」は、今年度、試験的に本校の指導案書式に取り入れ、授業づくり・授業の振り返りに活用している。

7 今年度の取組

7-1 「単元の評価シート」の作成

今年度は、「合わせた指導」の各単元において、学習する教科等の目標・内容を明確にし、その学習評価の方法や考え方を明らかにするために「単元の評価シート」(P11 資料2～4)を作成した。作成に当たっては、学習指導要領に示された各教科等の目標・内容を参照・入力しやすくすること、単元の共通目標等を個々の児童生徒の個人目標に反映しやすくすることなどを考え、表計算ソフトを使用して、データ上で作成・活用できるようにした。

この「単元の評価シート」は、「単元計画入力」のシート、「評価規準一覧」のシート、「個々の児童生徒の評価」のシート、「学習指導要領の目標・内容一覧」のシートの4種類のシートから成る。各シートの具体的な内容について以下に示す。

(1)「単元計画入力」のシート

ここでは、児童生徒観や単元観、単元の指導計画など、単元構想を整理する。単元を構想する段階で、「中心となる教科等の内容のまとめ」と「単元のどの時間にどのような内容を学習（指導）し、3観点のどの面から評価するか」を明文化することで、取り扱う各教科等の内容のまとめと学習（指導）の流れを明確化する。

昨年度に作成した「授業づくりのフレームワーク」では、多くの実践で「主体的に学習に取り組む態度」の評価場面が設定されていないことが課題となっていた。これは、学習活動に合わせた教科等の内容を選択する際に、内容のまとめを指導するということへの教員の意識・理解が低かったことが要因と考えられた。また、3観点から評価規準を設定することに不慣れであったことから、具体的な評価規準をイメージしやすい「知識・技能」の面についてのみ評価していたことも要因となったと考えられた。

そこで、この「単元計画入力」シートの「(3) 単元の共通目標・内容」(表2)に「中心となる教科等」を内容のまとめとして明記することとした。そして、「(4) 単元の指導計画」に、3観点からバランスよく評価を行うことを原則として、「どの時間(次)に、どの観点について評価するか」を明示することとした(表3)。

表2 「単元計画入力」のシート (3) 単元の共通目標・内容の記入例

各教科等	段階	内容のまとめ	
社会	中1段階	ア 社会参加ときまり	(ア) 社会参加するために必要な集団生活に関わる学習活動
家庭	中1段階	B 衣食住の生活	イ 調理の基礎
国語	中1段階	ア 言葉の特徴や使い方	ア 言葉の特徴や使い方
職業	中1段階	A 職業生活	ア 働くことの意義

ここに「中心となる教科等」を内容のまとめで明記

表3 「単元計画入力」のシート (4) 単元の指導計画の記入例

次	時数	○学習活動	教科等	知	思	主
1	2	「ラーメンをつくろう」 ○ラーメンの調理、試食 ○開店計画、役割分担についての話し合い	社会	○		
			家庭	○		
2	10	「ラーメン屋をひらこう」 ○調理の準備 ○開店準備 (箸、注文表の準備、食器セッティング、清掃) ○あいさつ・接客 ○お店の運営(調理、注文、給仕)	家庭		○	○
			社会		○	○
			職業	○	○	
			国語	○		○
3	2	「ふりかえり」 ○閉店作業(片付け・そうじ) ○ラーメン店の振り返り・売り上げの確認	社会		○	○
			職業			○

時間(次)との関連から、どの学習内容をどの観点から評価するかを明示

(2)「評価規準一覧」のシート

ここでは、単元を通して学習（指導）する教科等の内容のまとまりに対して、共通目標と3観点「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準を設定する。設定にあたっては「特別支援学校小学部・中学部 学習評価参考資料」（文科省,2020）を参考にした。また、学習活動に応じて学習指導要領で示されている内容をより具体的な表現にする等、授業における児童生徒の具体的な姿を想定した評価規準の設定を心がけた（表4）。

表4 「評価規準」のシートの記入例

各教科等	段階	内容のまとまり		評価規準	
家庭	中1段階	B 衣食住の生活	イ 調理の基礎	(ア) 知	ラーメンの調理の仕方や手順について知り、調理している。
				(イ) 思	材料や準備、片付けなどの調理計画について考え、レシピや役割分担にあわせて調理している。
				主	料理の過程や出来上がり、味に関心を持ち、自分で調理をしようとしている

学習活動等に合わせて、より具体的な児童生徒の姿を想定

(3)「個々の児童生徒の評価」のシート

ここでは、「評価規準一覧」のシートで設定された共通目標・評価規準をもとに個々の児童生徒の実態に応じて、各段階や内容を調整し、個別の評価規準を設定するとともに、各時間の学習評価等を記録し、単元の総合評価を行う。

学習評価等の記録は、記号または文章で行えるようにし、授業者がそれぞれ記録しやすい方法を選択することとした。また、「特別支援学校小学部・中学部 学習評価参考資料」（文科省,2020）に「毎時間児童生徒全員について記録をとり、総括の資料とするために蓄積することは現実的ではない」と示されているように、このシートも毎時間必ず記録を取ることとはしなかった。単元を通して蓄積した児童生徒の姿・様子、各時間の評価等の記録を根拠として、単元を通して取り扱う教科等の目標・内容をどれだけ身に付けることができたかを評価することが目的であり、評価の記録方法、タイミングなどは、教員が効果的と考える方法や形式で取り組むこととした。

(4)「学習指導要領の目標・内容一覧」のシート

これは、学習指導要領に示された目標・内容の一覧であり、「単元計画入力」・「評価規準一覧」・「個々の児童生徒の評価」の各シートを作成・入力する際に参考しやすくしたものである。データ化したことで、他のシートへの入力等をしやすくするとともに、一覧性を向上し、共通目標・評価規準を個々の段階に合わせて調整する際などに活用しやすくした。一方で、このシートに示されているのは、目標・内容の文言のみであり、それらをより深く理解したり、実際の授業における指導を考えたりするには、学習指導要領 解説等を参照することが重要である。

7-2 「単元の評価シート」を用いた授業実践

各学部で「合わせた指導」として生活単元学習の1単元を取り上げ、「単元の評価シート」を用いて、学習内容の整理、単元の指導計画や評価基準の設定、授業及び学習評価を実践した。

各実践については、各学部の実践報告を参照されたい。それらの実践結果をもとに、各学部で「単元の評価シート」活用の成果・課題を検討するとともに、単元の指導計画の作成及び単元の学習評価の方法について省察した。

7-3 今年度の指導・助言者

小学部	埼玉県教育局 市町村支援部 義務教育指導課 学びの支援担当	指導主事	山崎 慎也 様
	埼玉大学教育学部 特別支援教育講座	准教授	山中 冴子 様
中学部	埼玉県教育局 県立学校部 特別支援教育課 特別支援学校教育指導担当	指導主事	但野 智哉 様
	埼玉大学教育学部 特別支援教育講座	教授	葉石 光一 様
高等部	埼玉県教育局 市町村支援部 人権教育課	指導主事	堀口 剛 様
	埼玉大学教育学部 特別支援教育講座	教授	名越 斉子 様

7-4 今年度の研究活動の経過

月	研究に関する主な活動
4	○ 第1回 研究会議 ：研究テーマ、研究目的、今年度の研究についての確認
7	○ 公開授業研究会 1 ：中学部・高等部の授業公開及び研究協議 中学部指導者 葉石 光一 様 (埼玉大学)、但野 智哉 様 (県教委) 高等部指導者 名越 斉子 様 (埼玉大学)、堀口 剛 様 (県立総合教育センター)
8	○ 研究研修 富村 和哉 様 (福島県教育庁 特別支援教育課) 「児童生徒の確かな学びを目指した授業づくり」
	○ 第2回 研究会議 ：単元の評価シートの提案・検討
10	○ 公開授業研究会 2 ：小学部の授業公開及び研究協議 小学部指導者 山中 冴子 様 (埼玉大学)、山崎 慎也 様 (県教委)
12	○ 第3回 研究会議 ：各学部の研究のまとめの報告及び今年度の研究のまとめの提案
12	○ 研究研修 内河 水穂子 様 (埼玉大学) 「ニワトリの実践から考える」
2	○ 「第51回 特別支援教育研究協議会」オンライン開催 ○ 研究研修 古橋立哉 様 (三郷市立桜小学校) 「附属での実践から学んだこと」
3	○ 「研究集録第51号」発行及び配付 ○ 第4回 研究会議 ：来年度の方向性の提案・検討

<引用・参考文献>

- 文部科学省.特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編 (幼稚部・小学部・中学部).海文堂出版.2019
- 文部科学省.特別支援学校小学部・中学部 学習評価参考資料.2020 https://www.mext.go.jp/content/20200515-mxt_tokubetu01-1386427.pdf
- 丹野哲也.新学習指導要領等を踏まえた教育の展開－特別支援教育の推進とさらなる充実の視点から－.平成29年度国立特別支援教育総合研究所セミナー 基調講演 要点記録.2017 <http://www.nise.go.jp/nc/wysiwyg/file/download/1/1561>
- 中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会.児童生徒の学習評価の在り方について (報告).2019 https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/gaiyou/_icsFiles/afieldfile/2019/01/23/1412838_1_1.pdf
- 笹原雄介 山元 薫.知的障害特別支援学校の校内研究における資質・能力の捉え方と学習評価の実施状況に関する調査.静岡大学教育実践総合センター紀要.2018
- 松見和樹.知的障害教育における学習評価の現状と課題－特別支援学校(知的障害)が作成した研究紀要,実践記録等の検討から－.国立特別支援教育総合研究所研究紀要 第43巻.2016
- 尾崎雄三.知的障害教育における組織的・体系的な学習評価の推進を促す方策に関する研究－特別支援学校(知的障害)の実践事例を踏まえた検討を通じて－.国立特別支援教育総合研究所 専門研究 B-295.2015 <http://www.nise.go.jp/cms/7,10812,32,142.html>

資料2 「単元の評価シート」 単元計画入力のシート

単元の評価シート	○学部第●学年 生活単元学習	授業者 ○○○○ ○○○○ ○○○○				
(1) 単元名 _____						
(2) 単元設定の理由 (児童生徒観)						
〈単元観〉						
(3) 単元の共通目標・内容						
各教科等	段階	内容のまとめり				
(4) 単元の指導計画 (時間扱い)						
次	時数	学習活動	中心となる教科等	知	思	主
1						
2						
3						

資料3 「単元の評価シート」 評価規準一覧のシート

各教科等	段階	内容のまとめ	評価規準	
			知識・技能	
			思考・判断・表現	
			主体的に学習に取り組む態度	
			知識・技能	
			思考・判断・表現	
			主体的に学習に取り組む態度	
			知識・技能	
			思考・判断・表現	
			主体的に学習に取り組む態度	
			知識・技能	
			思考・判断・表現	
			主体的に学習に取り組む態度	

